

令和7年度実施分
協働事業・市民活動助成事業
公開プレゼンテーション審査資料

(HP掲載用)

目次(プレゼンテーション発表順)

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	市民活動助成		協働	ページ
				スタート	ステップアップ		
1	2回目	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業	エディブルウェイプロジェクトチーム みどりと花の課			○	1
2	3回目	まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業	まつど地域活躍塾つながりの会 政策推進課 SDGs推進担当室			○	7
3	新規	子育て中の方が手芸を楽しむ事業	Handicraft circle bijou ハンディクラフトサークルビジュ	○			13
4	新規	矢切地区における子どもの遊び場創設事業	あそびパーク やきりの	○			17
5	新規	みんなで創る未来の都市農業コミュニティ農園事業	まつど市民の会	○			21
6	新規	手作りおもちゃカフェ事業	子育て+プラスゆとりにつこり	○			25
7	新規	松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業	松戸の地理・歴史探訪調査会	○			29
8	2回目	四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業	小金原みんなでわくわくする会		○		33
9	新規	幸谷関さんの森昔のくらし館設置及び冊子発行事業	関さんの森エコミュージアム		○		37
10	新規	葡萄の家ふれあいコンサート・イベント事業	特定非営利活動法人 葡萄の家		○		41

No. 1

《 協働事業 》

みんなで育て みんなでつくる
沿道の食べられる景観事業

エディブルウェイプロジェクトチーム

みどりと花の課

事業計画

	<table> <tr> <td>事業名</td><td>みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観 事業</td></tr> <tr> <td>団体名</td><td>エディブルウェイプロジェクトチーム</td></tr> <tr> <td>事業担当課</td><td>みどりと花の課</td></tr> </table>	事業名	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観 事業	団体名	エディブルウェイプロジェクトチーム	事業担当課	みどりと花の課
事業名	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観 事業						
団体名	エディブルウェイプロジェクトチーム						
事業担当課	みどりと花の課						
事業概要 沿道の住宅や店舗前、地域の拠点、街中のプランターなどで、野菜やハーブなどを育てる「食べられる景観」づくりや、植物クラフト活動を実施する。生活に身近な場所での園芸活動を通じ、住民の交流を促進し、地域コミュニティ向上、地域環境を学び合う場を創出する。							
松戸市の課題	社会課題：核家族化、単身世帯の増加などから、近所づきあいなど地域での交流の機会が減少しています。松戸市でも、高齢者の単身世帯が増加しており、地域でのゆるやかなつながりづくりが課題と考えています。 みどりの課題：令和4年に新たな「松戸しみどりの基本計画」が策定されました。「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」をテーマに、基本方針に「みどりの市民力」を豊かにする、「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」が掲げられています。松戸市では里山ボランティアなどみどりの市民活動は盛んですが、一般市民の方の生活の中で、みどりを感じられる場面は少ないことが課題と考えられます。 そこで、本事業では、沿道での景観づくりやクラフトなど園芸活動を通じ、健康・福祉、景観、教育・子育て、食料生産など、みどりの機能を、生活に身近な場所で、住民の方と一緒に高め、推進することができると考えます。また、みどりの活動を通じて、地域でのゆるやかなつながりづくりにも貢献できると考えています。						
事業の目的	① 野菜やハーブを用いたユニークな景観づくりを行い、みどりの市民力向上や、みどりのあるライフスタイルの推進に寄与すること。 ② 園芸活動を通じた地域でのコミュニケーション機会の創出から、日常的に挨拶できる近所づきあいを増やすこと。 ③ 園芸活動や植物を使ったものづくりを通じ、地域環境を学び合う機会や、多世代での交流の機会をつくること。						
事業内容	1. 事業内容 (1) 食べられる景観づくり（通年、植え替え：4-5月・9-10月） - 野菜やハーブなど食べられる植物と、花苗の寄せ植えにより、食べられる景観づくりをする。園芸活動を通じた、多世代のコミュニケーションを誘発し、地域の顔の見えるつながりづくりに貢献する。 - 植え替え時期に、外部講師を招き、土壌の微生物環境を調整することで、土を入れ替えずに栽培をするリレー栽培講座を開き、見た目も美しく、持続可能な野菜の育て方を学ぶ。（年2回） - メンバー有志で育苗活動を実施する。（年2回） - 植え替え時期には、タネ・苗の配布交換会を開催する。（年2回） - プランターに設置しているサインの作成・修理会を開催する。（年1回）						

① 沿道での食べられる景観づくり

- ・ JR 松戸駅から千葉大学松戸キャンパスまでの松戸三丁目東自治会を中心とした地域で、沿道の個人宅、事業所前の私有地側の空間にお揃いのプランターを設置し、野菜やハーブを育てる。
- ・ 同地域の地域拠点施設（地域包括支援ケアセンター、小規模保育所などを想定）でも、食べられる景観を展開し、みどりのつながりを広げる。

② まちのプランターでの食べられる景観づくり

- ・ みどりと花の課が管理するプランターで、食べられる景観を展開し、地域のみどりのつながりを広げる。
- ・ 普段の水やりなどの管理は、地域包括支援センター、自治会子ども会、エディブルウェイ参加者などで連携して行う。
- ・ 月 1 回まちのプランターお世話会を開催する。植物の世話と合わせて、収穫期の植物があれば、ミニワークショップとして、ハーブクラフト体験、試食会、関連絵本の読み聞かせなどを行う。育てている野菜やハーブの使い方、楽しみ方を学び、栽培活動への意欲向上と交流を進める。

(2) 子ども向けクラフトワークショップの開催（年 2 回）

- ・ 外部講師を招き、市内の子ども向けに植物クラフトワークショップを開催し、ものづくりを通じた身近な地域環境の学びと交流の場を設ける。

(3) 情報発信：みどりの活動の普及・啓発のために、SNS、ホームページでの情報発信をする。

2. スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
(1) 食べられる景観づくり		
4-5 月・ 9-10 月	① 栽培講座・タネ・苗配布交換会、植え替え活動	A. 実施体制：外部講師、会員有志、B. 対象：EW 参加者、 C. 場所：自治会館又は市民会館（参加費 500 円、定員 20 名、2 回）
月 1 回 (毎月)	② まちのプランターお世話会	A. 実施体制：会員有志、 B. 対象：まちのプランターメンバー、EW 参加者、 C. 場所：まちのプランター、自治会館 ・ 毎月管理活動：参加者 15 名程度 ・ ミニ WS：参加費 300 円・定員 15 名・4 回開催予定 ・ 収穫試食会：参加費 300 円・定員 15 名・2 回開催予定
12・3 月	(2) 子ども向けクラフトワークショップ	A. 会員有志、外部講師、B. 地域の小学生、 C. 自治会館または市民会館、有料開催（参加費 1000 円、定員 20 名、2 回）

事業の目標	・ 食べられる景観づくりについては、沿道の新規参加者（5 世帯）、地域の拠点施設への展開（1カ所以上）を目指す。 ・ まちのプランター活動では、月1回の活動を実施し、多世代にわたる15名程度の参加者を目指す。まちのプランターの手入れと、植物を用いたイベントの開催を行う。学びや交流の場づくりを通して、活動を継続するための知識を共有する。
協働の必要性 (団体)	松戸市のみどりを担う課との協働事業として行うことで、地域の拠点施設などでも展開が実現できれば、地域のみどりや、人のつながりはさらに強化できると考えられます。 令和6年度からはじまった協働事業のまちのプランター活動では、これまでの参加者に加えて、新たに地域包括支援センターや子ども会、地域住民の参加がありました。地域活動として、多世代に参加いただけることになりました。これまでは、私有地の前にプランターを置いて、通りから眺める景観づくりの活動でしたが、街中のプランターで食べられる景観づくりができることになり、より地域の活動として多くの方にご参加いただき、楽しんでいただいております。子どもにとっては、園芸体験から、環境教育や、地域環境を学ぶ場として、高齢の方にとっては、外出や、体を動かすきっかけになり、どの世代にとっても、地域のさまざまな世代と交流する機会になっています。つながりが希薄化した地域社会で、いざというときに助け合えるゆるいつながりづくりに貢献できると期待しています。 当団体の活動は、松戸市のみどりの基本計画に掲げられた「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」の手法の一つとして、松戸市のみどりの市民力の向上に貢献できるのではないかと考えております。
協働の必要性 (市)	松戸市みどりの基本計画のテーマである「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」の推進のため、「みどり・人・暮らし」をつなげる実践の場を広げていく必要があります。エディブルウェイプロジェクトチームは、食べられる景観づくりやワークショップを通じた地域のコミュニティづくりに十分な実績があり、新たな地域への活動の拡大を期待しています。
事業実施の役割 分担	① 団体：プロジェクト地域での事業企画・運営・実施 ② 担当課：まちのプランター活動場所の提供、一部花苗の提供、地域との連携サポート
今後の展望	令和6年度 現・活動地域における地域拠点施設への活動の展開・拡充 令和7年度 現・活動地域における地域拠点施設への活動の展開・拡充 まちのプランターでの食べられる景観づくりの安定した管理・運営活動の仕組みづくり 令和8年度 現・活動地域における地域拠点施設への活動の展開・拡充 まちのプランターでの食べられる景観づくりの安定した管理・運営活動の仕組み、プロジェクトマニュアル検討 ・ 協働事業終了後は、松戸市内各地域で食べられる景観づくり（エディブルウェイプロジェクト）の普及活動と立ち上げ支援。 ・ 市内イベント等で、苗やクラフトグッズの販売、ワークショップ開催などの収益により、活動資金を調達し、活動継続できることを目指します。

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額（Ａ）	¥ 919,296	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	イベント（WS・講座）参加費	¥ 87,000	(1)リレー栽培講座500円*20人*2回、ミニWS 300円*15人*4回、収穫 試食会 300円*15人*2回 (2)クラフトWS 1000円*20人*2回
	自己資金の合計額（Ｂ）	¥ 87,000	
市	協働事業負担金（Ｃ）	¥ 377,300	
合計額（Ｄ）＝（Ｂ＋Ｃ）		¥ 464,300	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 120,000	講座外部講師謝礼金（30,000円*4 回）
	消耗品費	¥ 238,500	[食べられる景観づくり] ・土再生材 10kg(6000円*1個) ・ミミズ堆肥 5kg（1000円*6個） ・元肥（600円*5個） ・培養土40L（1400円*10個） ・野菜苗（育苗が困難な種類・沿道プランター25個*2期、まちのプランター25個*2期）（300円*100個） ・果樹苗（5000円*2個） ・まちのプランター資材一式（支柱、ネームタグ、紐など）5000円 ・タネ（300円*20個） ・育苗用資材一式（育苗ケース・ポット・用土など）（5000円*2回） ・サイン修理・材料一式 3000円 ・ラミネートシート 3500円 ・布製プランター（500円*20個） ・木製プランター（3000円*10個） ・プランターロゴ印刷シルクスクリーン版（3000円*2個） ・シルクスクリーンインク（3000円*2個） ・試食会材料（5000円*2回） [クラフト] ・クラフト材料費（フェルト、蜜蝋、麻紐等）（10000円*2回） ・ハーブクラフトミニWS材料費（花材、瓶等）（5000円*4回） [活動全般] ・参考書籍（クラフト・園芸福祉活動等）（2000円*5冊） ・まちづくり絵本（2000円*5冊） ・文具類一式（付箋、封筒、コピー用紙等）5000円 ・作業用エプロン（1000円*10枚） ・園芸道具類一式（養生シート、移植ゴテなど）5000円
	食糧費	¥ 16,000	・参加者お茶代（まちのプランター活動12回+植え替え講座、クラフト4回*1000円（1回20人分））
	印刷製本費	¥ 13,800	・チラシ印刷費（A4両面カラー15円*100部）*6回 ・資料コピー代（10円*30枚*16）
	使用料及び賃借料	¥ 25,600	・自治会館（講座・育苗会 計16回*1600円）
	保険料	¥ 2,000	キッズクラフトワークショップ保険料（1000円*2 回）
	通信運搬費	¥ 4,400	切手代（メールなし110円*20世帯*2回）
	対象経費の合計（Ｅ）	¥ 420,300	
（その他）対象経費	食糧費	¥ 12,000	お弁当代（植え替え/WS 600円*5名*4回）
	交通費	¥ 26,000	資材運搬用交通費（レンタカー）5000円*2回 スタッフ交通費（往復1000円*12回） 講師交通費（往復1000円*4回）
	通信費	¥ 6,000	・ホームページサーバーレンタル年間（4000円） ・ホームページドメイン年間（2000円）
	その他経費の合計額（Ｆ）	¥ 44,000	
合計額（Ｇ）＝（Ｅ＋Ｆ）		¥ 464,300	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金（Ｃ）が、対象となる経費（Ｅ）欄の90％以内であること。
- 2 協働事業負担金（Ｃ）が、自己資金（Ｂ）欄に労力換算額（Ａ）欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	WS・講座打ち合わせ（4回）	36,936 円	3 人 × 3 h × 4 回 × 1026 円
	WS・講座準備（4回）	73,872 円	3 人 × 6 h × 4 回 × 1026 円
	WS・講座開催（会場設営・撤収含む）（4回）	82,080 円	5 人 × 4 h × 4 回 × 1026 円
	まちのプランター活動・ミニWS打ち合わせ（12回）	73,872 円	3 人 × 2 h × 12 回 × 1026 円
	まちのプランター活動・ミニWS準備（12回）	221,616 円	3 人 × 6 h × 12 回 × 1026 円
	まちのプランター活動・ミニWS開催（会場設営・撤収含む）（12回）	307,800 円	5 人 × 5 h × 12 回 × 1026 円
	育苗会準備（2回）	18,468 円	3 人 × 3 h × 2 回 × 1026 円
	育苗会開催（2回）	49,248 円	8 人 × 3 h × 2 回 × 1026 円
	サイン作成・修理会（1回）	24,624 円	8 人 × 3 h × 1 回 × 1026 円
	タネ・苗交換会準備（2回）	10,260 円	5 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	タネ・苗交換会開催（2回）	20,520 円	5 人 × 2 h × 2 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
合 計 （A）		919,296 円	

No. 2

《 協働事業 》

まつど de SDGs の輪を広げよう
プロジェクト事業

まつど地域活躍塾つながりの会

政策推進課 SDGs 推進担当室

事業計画

事業名	まつど de SDG s の輪を広げようプロジェクト事業
団体名	まつど地域活躍塾つながりの会
事業担当課	総合政策部 政策推進課 SDGs 推進担当室

事業概要
まつど地域活躍塾つながりの会(市民団体)と松戸市(行政)との連携・協働、市民参加型 SDGs 普及啓発による SDGs の一層の浸透・定着並びに行動意識を高めることを目的とし、市民参加型の SDGs をテーマとしたフェスティバル(まつり)、学習会や市民対話集会を開催する。

松戸市の課題	・ 2015 年 9 月に国連で 193 カ国の合意の下に定められた「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」は、2030 年までに世界の様々な課題をテーマとした 17 個の目標を達成していくことを目指しており、日本政府や大企業等でも、目標達成へ向けた取組みが進められている。 ・ SDGs 目標達成の 2024 年進捗レポート(Sustainable Development Report 2024)によれば日本の世界順位は 18 位となり前年(2023 年)の 21 位から順位は上がったが、現状で達成されているのは目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」だけで、残り 16 個の目標は課題が残っている。 ・ 松戸市は、2022 年 5 月に国の「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」に選ばれたこともあり、市民の中で SDGs の普及啓発による一層の理解浸透・定着を図りながら、市民レベルでの SDGs 達成に向けた行動に繋げていくことが求められる。こうした課題に対し、SDGs の目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」から、行政と市民社会が連携・協働し市民参加型のローカル SDGs 普及啓発を進める意義がある。
事業の目的	本事業では、まつど地域活躍塾つながりの会(市民団体)と松戸市(行政)とのパートナーシップにより市民に対しローカル SDGs の取組みに関与・参加する機会を創出することで、市民の SDGs に対する理解および行動意識を高めていくことを目的とする。
事業内容	1 事業内容 市民における SDGs の理解とその浸透・定着を図り、地域活性化や社会課題解決に取り組んでいく市民の行動意識を一層高めるため、「①SDGs フェスティバル(まつり)」、「②SDGs 地域学習会」、「③松戸市の SDGs 関係者を集めた市民対話集会」の主に 3 つ活動を行う。なお、本申請事業年度は協働事業の最終年度にあたることから、市民社会における SDGs 普及啓発活動のまとめと位置づけた取り組みを行う。 ① <u>SDGs フェスティバル(まつり)</u> ・ 時期・回数: 2025 年 7 月～9 月の中で 1 回開催 ・ 対象: 市民、団体

- ・ 市民を対象とした **SDGs** カルタや **SDGs** クイズの大会等を取り入れたイベントを開催し、楽しみながら **SDGs** を普及啓発する機会を設ける。
- ② **SDGs** 地域学習会
- ・ 時期・回数: 2025 年 9 月～12 月の中で 2 回開催
 - ・ 対象: 市民、団体
 - ・ 【第 1 回】 毎年、9～10 月に実施される松戸市消費生活展へのパネル展示を通じた地域学習会を開催し、市民への普及啓発活動を行う。
 - ・ 【第 2 回】 **SDGs** の内容につながる映画『食べることは生きること ～アリス・ウォータースのおいしい革命～』を視聴し、その内容に基づいて対話学習を実施する。
- ③ 松戸市の **SDGs** 関係者を集めた市民対話集会
- ・ 時期・回数: 2026 年 1 月～3 月の中で 1 回開催
 - ・ 対象: 市民、団体
 - ・ 当会が松戸市で実施してきた **SDGs** 関連の活動に参加した市民・団体等を集め、今後の松戸市としての **SDGs** の方向性に関する意見を集約し、松戸市の「**SDGs** 未来都市」を促進していくための助言を提供する。協働事業の申請は 3 年目と最終年となるため、全体のまとめ(方向性と課題の総括)の位置づけと、関係者への共有を図る目的で本集会を開催する。
- ④ その他
- ・ 3 年間の事業の中で、**SDGs** 教材開発が未完のままであるが、当会が松戸市消費生活展で作成したパネルを教材と位置付け、フェスティバル、地域学習会や対話集会の中で展示・活用を図る。
 - ・ 作成した **SDGs** 事例集は、ウェブサイト、イベント等で周知を図り、情報発信を行う。

2 スケジュール

	① フェスティバル(まつり)	② 地域学習会	③ 市民対話集会
2025 年 4 月	打合(市)		
5 月	準備		
6 月	広報作業	第 1 回地域学習会準備	
7 月	一般参加者募集	パネル作成	
8 月	フェスティバル開催 対象: 市民・団体 場所: サポセン		
9 月		第 2 回地域学習会準備	
10 月		第 1 回地域学習会開催(松戸消費生活展) 対象: 市民・団体 場所: 松戸市役所	
11 月		広報作業 一般参加者募集	打合(市)
12 月		第 2 回地域学習会開催(映画) 対象: 松戸市民 場所: サポセン	準備
2026 年 1 月			
2 月			対話集会開催 対象: 市民・団体

		3 月		場所:サボセン 事業総括(SDGs 推進室への提言等)	
事業の目標	当会と松戸市との連携・協働による市民参加型によるローカル SDGs の広がりを一層持たせるための今回の事業目標は、下記の通り主な 3 つの活動ごとに設定する。 ① <u>SDGs フェスティバル(まつり)</u> 市民 50 人以上が参加し、多くの市民に松戸市における SDGs 推進の理解の促進と行動変容を促す(参加した人にコメントを書いてもらい、その結果を集約して分析)。 ② <u>SDGs 地域学習会</u> 第 1・2 回目の地域学習会の開催に合計 70 人が参加し、SDGs への理解を深める(参加した人にコメントを書いてもらい、その結果を集約して分析)。 ③ <u>松戸市の SDGs 関係者を集めた対話集会</u> 開催する市民対話集会に参加した団体・市民等から、今後、松戸市の市民社会の中で SDGs を推進していくための内容を取りまとめ、市の SDGs 推進担当室に提出する。				
協働の必要性 (団体)	・ 当該事業を通して市と協働することで、引き続き松戸市の「SDGs 未来都市」としての取組みを後押し、市民社会でのローカル SDGs の推進に貢献したいと考えている。 ・ 市と協働することで、市民に向けて市からも情報発信され、より多くの市民にローカル SDGs の取組みを知ってもらい、市民社会で広く SDGs の必要性和理解を深め、行動意識を高めていくことにつながる。				
協働の必要性 (市)	・ 当会と連携することで、地域や市民に根差した SDGs 推進を進める上での相乗効果が期待できる。 ・ また、市民の立場で SDGs の普及啓発を行ってきた当会のこれまでの経験と実績、地域や人とのつながりを活かすことで、市の取組みとの連携の裾野拡大等が期待でき、協働する意義は大きいと考える。				
事業実施の役割 分担	【まつど地域活躍塾つながりの会】 各実施内容の募集・チラシ作成、講師・応募者・参加者等との連絡・調整、・SDGs フェスティバル(まつり)・地域学習会・市民対話集会の開催など 【松戸市 SDGs 推進担当室】 各実施内容への協力・助言、広報・情報発信、外部講師紹介、SDGs フェスティバル(まつり)・地域学習会・市民対話集会やフォーラム実施への協力、地域学習会の協働開催など				
今後の展望	松戸市との協働事業終了後、当会としては SDGs ネットワーク団体や関係者とのさらなるパートナーシップの強化を通じて、イベントやワークショップを継続的に開催し、収入源を得ていくことが一つの進め方として考えられる。また、松戸市で行われる松戸消費生活展等の催し物に出展し、人が多く集まる場を有効に活用しながら、SDGs 普及啓発活動の継続性を担保していきたいと考えている。さらに、松戸市とも情報共有を図る機会を必要に応じて設け、協力体制を維持しながら市民社会の中で「SDGs 未来都市」に貢献できるように取り組んでいきたい。				

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 248,292	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 9,507	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 9,507	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 85,563	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 95,070	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
	印刷製本費	¥ 10,000	SDGsフェスティバル(1回開催)のチラシ: 5円×1,000枚 地域学習(SDGs映画1回分)のチラシ印刷: 5円×1,000枚
	使用料及び賃借料	¥ 82,920	フェスティバル(まつど市民活動サポートセンター大会議室等): 660円/時間×5時間×1回 地域学習(SDGs映画1回分)(まつど市民活動サポートセンター大会議室等): 660円/時間×4時間×1回 対話集会まつど市民活動サポートセンター大会議室等): 660円/時間×3時間×1回 アリスウォーターズ映画視聴費用(1回): 55,000円 チラシデザイン費: (10,000円×2回)
	通信運搬費	¥ 2,150	関係者への資料・チラシ等の郵送代: 430円(レターパックライト)×5回
	対象経費の合計 (E)	¥ 95,070	
(その他 対象外 経費)		¥ 0	
		¥ 0	
	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 95,070	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	①SDGsフェスティバル(まつり) 打合せ	12,312 円	6 人 × 2 h × 1 回 × 1026 円
	フェスティバルの準備	6,156 円	6 人 × 1 h × 1 回 × 1026 円
	フェスティバルの実施	43,092 円	6 人 × 7 h × 1 回 × 1026 円
	フェスティバルの事後処理	2,052 円	2 人 × 1 h × 1 回 × 1026 円
	②SDGsの地域学習 打合せ	12,312 円	6 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	地域学習会の準備	12,312 円	6 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	地域学習会の実施	98,496 円	6 人 × 8 h × 2 回 × 1026 円
	地域学習会の事後処理	4,104 円	2 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	③松戸市のSDGs関係者を集めた市 民対話集会 打合せ	6,156 円	6 人 × 1 h × 1 回 × 1026 円
	市民対話集会の準備	6,156 円	6 人 × 1 h × 1 回 × 1026 円
	市民対話集会の実施	43,092 円	6 人 × 7 h × 1 回 × 1026 円
	市民対話集会の事後処理	2,052 円	2 人 × 1 h × 1 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
合 計 (A)		248,292 円	

No. 3

《 スタート助成 》

子育て中の方が手芸を楽しむ事業

Handicraft circle bijou

ハンディクラフトサークルビジュ

事業計画書

	<table border="1"> <tr> <td>事業名</td><td>子育て中の方が手芸を楽しむ事業</td></tr> <tr> <td>団体名</td><td>Handicraft circle bijou ハンディクラフト サークル ビジュー</td></tr> </table>	事業名	子育て中の方が手芸を楽しむ事業	団体名	Handicraft circle bijou ハンディクラフト サークル ビジュー
事業名	子育て中の方が手芸を楽しむ事業				
団体名	Handicraft circle bijou ハンディクラフト サークル ビジュー				
事業概要					
ものづくりを通して、子育て中の忙しい時間から少しだけ解放されて、育児をしている方の心の安定、『自分のための夢中になれる時間』や他者との交流を提供する居場所を作る。					
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	子育てをしていると自分の時間を作ることも難しく、日々の生活に追われることが多くなり、他者との交流も簡単なことではない。 更に、親族の協力が得られず、近所との付き合いもなく孤立した中で母親（または父親）が子どもを育てている状態を‘孤育て’という。 松戸市でも‘孤育て’支援に力を入れているが、本会にて、「好きだった手芸をすることができ、子どもや家族以外と話す機会ができて助けられた」、「他者との交流や作ることの楽しさを知れて生き甲斐になった」等の声を聞くと、まだ支援が必要なところにまで届いていないと実感する。 特に、シングルマザーや未就園児、障がいを持つ子どもの育児をしている方が自分の時間を持つことや、新しい居場所を見つけるのが困難な為、孤独な時間を少なくする為にも‘孤育て’は課題である。				
事業の目的	手芸を通じて自分の時間を持ち、他者との交流ができる居場所作りをすることを目的とする。				
事業内容	1 事業内容 ①制作会（5回） 会場“明市民センター 第二会議室” 当会は、上本郷第二小学校 PTA 手芸サークルから市民活動へ移行した団体であり、活動の拠点として地域に働きかけやすいため明地区で活動する。 手芸の中で1つテーマを選び、誰が制作しても2時間以内で作れるものとする。また多くの方に気軽に参加していただけるように参加費と材料費を合わせて1人1回300円以内の活動とする。 自分の時間を持つ取り組みとして希望者は制作中、用意した別室で未就園児を保育士（外部スタッフ）に預け、親が子どもから離れる時間を確保できるようにする。また、手芸を通じた居場所作りの場を提供し、育児をされている方がどなたでも参加できるようにする。 ②他団体が主催するイベントにて子ども向けワークショップ（1回） 会場“北松戸会館” 外部団体との連携により、多くの方に活動の周知とみんなで作ることの楽しさを知ってもらい、来てくれた方に、みんなの制作会のチラシを配布し当事業に興味のある親子の参加を促す。 ③みんなの制作会（1回） 会場“明市民センター 第一会議室” 親子や友達同士、親戚の子ども等みんなで参加することにより、大人数で行うことでの手芸の楽しさや、みんなで制作することの楽しさを感じてもらい。更に大人だけでなく子どもとの交流や子ども同士の交流も目的とし、夏休み中は連日子どもと過ごす時間が多くなり、孤独を感じやすい期間なので大人との対話や気分転換の場を提供する。 ④ちいさな制作会（1回） 会場“南花島会館” 未就園児メインとしたイベントを開催し、自分の時間を作ることの大切さに気付いてもらう活動とする。子どもと一緒に制作もできるシールを使った手				

	形アートを制作する。希望者は制作中、用意した別室で未就園児を保育士（委託）に預け、親が子どもから離れる時間を確保することもできる。 ※①③④の活動では制作前後で達成感と気分評価アンケートを実施する。 2 スケジュール		
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	4	チラシの制作・配布	実地体制:構成員 対象:地域住民
	5	①制作会	実地体制:構成員、保育士（外部） 対象:地域住民 場所:明市民センター
	6	②他団体主催イベントにて子ども向けワークショップ	実地体制:構成員 対象：イベント来場者 場所：北松戸会館
	7	①制作会	実地体制:構成員、保育士（外部） 対象:地域住民 場所:明市民センター
	8	③みんなの制作会	実地体制:構成員 対象:地域住民 場所:明市民センター
	9	①制作会	実地体制:構成員、保育士（外部） 対象:地域住民 場所:明市民センター
	10	④ちいさな制作会	構成員、地域住民、保育士（外部） 対象:地域住民 場所：南花島会館
	11	①制作会	実地体制:構成員、保育士（外部） 対象:地域住民 場所:明市民センター
	1	①制作会	実地体制:構成員、保育士（外部） 対象:地域住民 場所:明市民センター
既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）			
事業の目標	①制作会 達成感と気分評価のアンケートで、5段階評価にて実施前が低評価であり、実施後は高評価に向上することを目指す。 1回あたりの人数10人、うちリピーターが5割以上。新規1割以上。 ②子ども向けワークショップ “みんなの制作会”へ、親子で参加してもらうようチラシを20人へ渡し周知をする。 ③みんなの制作会 大人10名子ども16名、うち制作会のリピーター5割以上。新規2割以上。 ④ちいさな制作会 活動を周知してもらい、制作会へも興味を持ってもらう。 参加者大人10名 子ども10名。新規2割。		
今後の展望	制作会を継続することで、‘孤育て’している方の新しい居場所として、安心・安全な憩いの場となるようにしたい。また、みんなの制作会や、外部団体との連携をとり、地域交流の場に来てもらう機会を増やしていきたい。		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	参加費（材料費）	¥ 15,000	300円×10人×（5回）
	イベント参加費（材料費）	¥ 7,200	子ども向けワークショップ（50円×20人） みんなの制作会（大人300円×10人・子ども200円×16人）
	保育料（希望者のみ）	¥ 5,400	制作会（300円×3名×5回） ちいさな制作会（300円×3名）
	自己資金の合計額（A）	¥ 27,600	
市	市民活動助成金（B）	¥ 100,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥ 127,600	

【支出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 42,347	【文具】 フリクション（181円×6本） インク（7200円×1） ハサミ（518円×5） クリップボード（110円×5枚）・A4コピー用紙（496円×2） ボンド（110×5本）・詰め替え用ボンド（598円×2本） 【各イベント共通用手芸用品】 ・手芸用道具類一式（工具、レジランランプ、組紐等一式）9000円 ・手芸材料費（レジ、アクセサリ資材、布等一式）（9000円） 【未就園児の親子イベント】 ・手形、足形アート一式（アクリル板、シール、手形ハンコ等一式）3880円 ・厚手レジャーシート（3000円） 【イベント消耗品】 ・養生テープ、セロテープ、ゴミ袋、持帰り袋等（3303円）
	食糧費	¥ 9,200	お茶菓子、飲み物 200円×26人（みんなの制作会） 200円×20人（ちいさな制作会）
	印刷製本費	¥ 8,000	チラシ印刷 400部
	使用料及び賃借料	¥ 17,110	・明市民センター（制作会5回×2部屋） 220円×2時間×2部屋×10回 （みんなの制作会）270円×3時間 ・南花島会館（ちいさな制作会）7500円
	報償費	¥ 43,200	保育士謝礼 1時間1800円×保育士2名×2時間×6回（明市民センター、南花島会館）
	保険料	¥ 4,743	行事保険料 1581円×3日（みんなの制作会、ちいさな制作会、子ども向けワークショップ）
	対象経費の合計（D）	¥ 124,600	
その他経費	子ども向けワークショップ参加費	¥ 3,000	正会員のみ 300円×10人
	その他経費の合計（E）	¥ 3,000	
合計額（F）＝（D＋E）		¥ 127,600	

【チェック項目】

- 1 助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。
- 2 助成金（B）が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 4

《 スタート助成 》

矢切地区における子どもの遊び場創設事業

あそびパーク やきりの

事業計画書

事業名	矢切地区における子どもの遊び場創設事業
団体名	あそびパーク やきりの

事業概要	
矢切地区で、①子育て世帯が子育てのし易さを実感でき、②子ども達の自主性や感性を引き出す事ができる、そんな遊び場・居場所をつくるために、プレーパークイベント、農体験イベントを実施する。③映画上映会を通して、地域全体で子どもへの理解・関心を高めるとともに、子育て世帯とそれ以外の立場の人で相互に理解し合える環境を作る。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	①矢切地区には子育て支援に関する施設や相談機関、イベントが他地域と比べて少なく、子育てのしやすさを実感出来ていない。 ・乳幼児期に親子で過ごしたり、相談できる場が少ない。 ・子ども達が放課後に気軽に立ち寄れる児童館のような常設の施設がない。 ・不登校児が増加しているが日中に気軽に訪れる事が出来るフリースペースや居場所が少ない。親子ともに困難を抱えている家庭が多いと考える。 ②矢切地区には自然が残っている場所もあるがうまく活用されておらず、また子どもたちが自由に遊ぶことができる場や機会が少ない。 ・学校や公園等の遊び場には安全面や近隣への配慮等から制限が多く、子どもが自由に伸び伸びと遊ぶことが難しい。 ・子どもたちの農や自然に触れる機会が減少している。 ③子育て世帯とそれ以外の世帯との交流の場が減っており(子ども会の解散等)、双方の立場を理解し合う事が難しくなっている。
事業の目的	①矢切地区において子ども、子育て家庭が気軽に参加できる場や機会を増やすことで、子育てしやすいと実感できるようにする。 ②矢切の自然を生かした遊びやイベントを通じて、子どもたちの自主性や感性を引き出す機会を作り、かつその機会が不登校児にとっての居場所にもなり得るようにする。 ③地域住民に広く、子育てに関する情報や知見を届け、地域全体で子どもへの理解、意識を高めていくとともに、世代間の交流の場を生み出す。
事業内容	1 事業内容 ①プレーパーク:矢切地区にて、子ども・親子の遊び場・居場所となるプレーパークを休日に開催し(坂川親水広場(予定)、坂下ほんでん子どもの遊び場(予定))、また未就学児・不登校児の居場所となるように平日にも開催する(坂川親水広場(予定))。プレーパーク実施日には構成員が事前に、木工遊び、コマ遊び等が出来るスペースを可能な範囲で準備し、開催時間中は見守り役として場内に常駐する。 ②農体験イベント:子どもたちの農や自然に触れる機会として、矢切耕地にある坂下ほんでん子どもの遊び場内の畑(予定)にて農体験イベントを開催する。畑の管理方法や野菜栽培の監修を、外部講師として現役農業従事者に依頼する。講師には畑の植え付けの際実際に来てもらい、それ以外は都度相談役となってもらう。 ③プレーパークのドキュメンタリー映画「ゆめパの時間」上映会を実施する。

	2024 年に引き続き矢切幼稚園、松戸市教育委員会への協力・後援を仰ぐ。		
	2 スケジュール		
	※周知活動は下記その他、各イベント約 1 か月前に当団体 SNS 配信を行う。		
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	4 月	①②③周知活動(チラシ 掲示・配架・SNS 配信)	実施体制：構成員、周知対象：地域住 民、周知場所：市民活動サポートセ ンター等/インスタグラム
		①②消耗品購入	実施体制：構成員
		③会場手配及び調整	実施体制：構成員
		①②プレーパーク【休日】 +農体験(畑での穴掘り兼 耕し)	実施体制：構成員、対象：地域の子 ども・住民、場所：坂下ほんでん子 どもの遊び場内畑(予定)
	5 月	①②プレーパーク【休日】 +農体験(畝づくり)	構成員、地域の子ども・住民、坂川親 水広場(予定)・坂下ほんでん子ども の遊び場内畑(予定)
		①②プレーパーク【休日】 +農体験(マルチ張り)	構成員、地域の子ども・住民、坂川親 水広場(予定)・坂下ほんでん子ども の遊び場内畑(予定)
	6 月	③映画「ゆめパの時間」 上映会	構成員、地域の子ども・住民、矢切幼 稚園(予定)
	9 月	①②プレーパーク【休日】 +農体験(植え付け)	構成員・外部講師、地域の子ども・住 民、坂川親水広場(予定)・坂下ほん でん子どもの遊び場内畑(予定)
	10 月	①プレーパーク【平日】	構成員、不登校児・未就学児、坂川親 水広場(予定)
	11 月	①②プレーパーク【休日】 +農体験(収穫)	構成員、地域の子ども・住民、坂川親 水広場(予定)・坂下ほんでん子ども の遊び場内畑(予定)
	2 月	①プレーパーク【平日】	構成員、不登校児・未就学児、坂川親 水広場(予定)
既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ)			
事業の目標			
この遊び場・居場所が矢切地域市民に広く知られ、気軽に行くことができる 場所になることを目指す。また、子ども達が自己選択・自己決定をし、挑戦・ 失敗・成功の体験ができる場所にする。			
①プレーパーク【平日】参加者 5 人/回 【休日】参加者 20 人/回			
②農体験イベント 4 回開催			
③映画上映会参加者 60 人/回			
今後の展望			
・遊び場・居場所を継続させるために、広報活動に力を入れる。また、他団 体との横のつながりを作っていく、ゆくゆくは、常設の基地となる場をつく り、世代を超えた矢切地域の遊び場・居場所として開放したい。			

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 6,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	イベント参加料	¥ 81,000	プレーパーク【平日】 5人×100円×2回 プレーパーク【休日】 20人×100円×5回 農体験 20人×100円×5回 映画上映会 60人×1000円
	自己資金の合計額 (A)	¥ 87,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 187,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	¥ 60,000	映画使用料
	印刷製本費	¥ 11,000	上映会チラシ印刷3000部(印刷業者ラクスル):9,400円 アンケート印刷代:60部×10円(600円) 農体験チラシ印刷100部(印刷業者ラクスル):1,000円
	消耗品費	¥ 68,500	農体験 苗代:120株×110円=13,200円 黒マルチ材:6セット×400円=2,400円 マルチ抑え:200本×10円=2,000円 土嚢袋:200枚×30円=6,000円 剪定ハサミ:10本×200円=2,000円 麻紐:3巻×200円=600円 ビニール袋:60枚×5円=300円
			プレーパーク 資材・遊び道具:3,000円×7回=21,000円 参加者用お菓子:110人×100円=11,000円
			スコップ購入費:2,000円×5本
	報償費	¥ 30,000	外部講師謝礼(畑監修):30,000円/年
	対象経費の合計 (D)	¥ 169,500	
その他経費	食糧費	¥ 17,500	会員の昼食代:500円×5人×7回(平日プレーパーク時)
	その他経費の合計 (E)	¥ 17,500	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 187,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 5

《 スタート助成 》

みんなで創る未来の都市農業
コミュニティ農園事業

まつど市民の会

事業計画書

	事業名	みんなで創る未来の都市農業 コミュニティ農園 事業
	団体名	まつど市民の会
事業概要		
コミュニティ農園を通じて、人々のつながりや自然との触れ合いが深まり、未来への希望や循環型環境づくりに貢献し、食への関心を育み、都市農業の新たな形を共に創り上げていく。		
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市は、大都市周辺で行われる近郊農業地帯として発展していましたが、都市化が進む中で、農地が都市施設や宅地等に変わり、人口約 50 万人を抱える都市に発展してきました。 一方で、農業従事者の高齢化、担い手や後継者不足が深刻化していますが、他方で、農業が担う役割である農産物の供給のほか、都市の中の貴重な緑地や防災機能など、都市農業の有する多面的機能である、地域活性化、環境保護、食の安全、地産地消、持続可能、教育などの重要性が認識されてきています。 松戸市では、都市農業振興基本計画の主旨を踏まえ、都市農業の有する多様な機能の発揮を通じて、良好な都市環境の形成に資することを目的に、市内全域で営まれている農業を都市農業と位置づけ、本市農業の持続的な振興に関する平成 31 年（2019 年）3 月に「松戸市都市農業振興計画」を策定されました。 本事業では、計画に掲げられている『次代につなぐ、人、まち、農業』の理念を実現できる、きっかけを市民に提供できる内容と考えています。	
事業の目的	①松戸市の農業の現状を身近に感じるきっかけを作ること。 ②人と人のコミュニティが形成されるきっかけを作ること。 ③環境の保全について身近に体験でき、きっかけを作ること。 ④未来に農業をつなげるきっかけを作ること。 ⑤事業を通じて、食の安全、持続可能への取り組みのきっかけを作ること。	
事業内容	1 事業内容 ①土づくり、苗づくり、植え付け、管理（通年） 耕作に使用されていない、農地およびプランターで自然農法を基準に土づくりを行い、畑およびプランターで育てる準備を行う。プランターでの自然農法は、子どもや初心者に対して、自然と共に作物を育てるプロセスを学ぶ良い機会を提供できる。種から苗を作り植え付けをする。農園（候補地、主水新田地域、七右衛門新田地域、紙敷地域）の管理は、草取り、マルチ張り、水やりは必要な時に行う。土作りから、野菜の作り方を学ぶ。 ②収穫体験（都度、ジャガイモ、サツマイモ、夏野菜、春野菜） 収穫により、食材や農業に対する理解を深め、コミュニティとの交流を通じて、豊かな生活を実現するための多くの気づきを得る貴重な機会とする。 ③情報発信 事業周知、普及、啓発のために、広報、チラシ、地域情報誌、関係団体への発信、SNS で発信をする。（月 1 回以上） ④上映会（年 1 回）「いただきますみそをつくるこどもたち」（予定） ⑤料理教室（年 2 回） 事業で収穫した食材を使用して料理を作り、地産地消の経験をし、農業や経済への貢献についての理解を深める。 ⑥講座（年 2 回） 自然農法に関する講座を行い、循環型都市環境の形成と保全についての知識の習得と取り組みについての理解をする。 ⑦次年度生産計画書の作成 次年度に向けた、生産計画を作成する、その際事業年度の振り返り、フィードバックを行う。 ⑧活動報告 活動報告を開催し、新規参加者の巻き込みを図り、地域の活動として定着を目指す。	

	2 スケジュール		
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	通年	①土づくり、畑とプランターの管理、苗づくり、植え付け	A. 実施体制: 会員有志 B. 対象: 参加者 C. 場所: 農園およびプランター
	毎月	③情報発信 (SNS の発信)	SNS の発信
	4 月 12 月	⑥講座	A: 会員有志、外部講師 B: 参加者 C: 市民センター
	7 月	④上映会	A: 会員有志 B: 参加者 C: 市民センター
	7 月・ 8 月・ 9 月・ 10 月・ 11 月・	②収穫体験	A: 会員有志 B: 参加者 C: 農園
	11 月・ 2 月	⑤料理教室	A: 会員有志 B: 参加者 C: 市民センター
	1 月・ 2 月・ 3 月	⑦次年度生産計画書の作成 (各月 1 回会合)	A: 会員有志 B: 参加者 C: 市民センター
	3 月	⑧活動報告	A: 会員有志 B: 参加者 C: 市民センター
・事業を始めるまでには農園確保を予定。 ・対象参加者は候補地の近隣に住む多世代の松戸市民			
既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)			
事業の目標	事業年度目標 ・農園事業に参加する家族を年間 10 家族の参加を目標とする。 ・収穫体験に年間 25 組参加を目標とする。 ・上映会参加人数を 50 人を目標とする。 ・講座受講者を 2 回で 40 人を目標とする。 ・料理教室への参加を 2 回で 10 組を目標とする。		
今後の展望	コミュニティ農園事業の拡大、都市農業としての松戸市の特徴のある街づくり事業として定着をさせる。 耕作放棄地の削減、後継者育成事業の一つとして定着させる 令和 7 年度 コミュニティ農園活動を展開・拡充 令和 8 年度 コミュニティ農園事業の新拠点への展開と支援 令和 9 年度以降 コミュニティ農園事業のマニュアルづくり、企業との共同事業への展開と農業経営環境の改善。 事業だけでなく、農産物のブランド化への展開を進めて行く。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	イベント（講座・収穫体験）参加費	¥ 34,700	講座（430円×20人）2回 収穫体験（500円×5組）5回 料理教室（500円×5組）2回
	上映会参加費	¥ 25,000	映画『いただきます みそをつくるこどもたち』 （500円×50人）
	自己資金の合計額（A）	¥ 59,700	
市	市民活動助成金（B）	¥ 100,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥ 159,700	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 104,000	・深型ブレンダー 5000円×10 50,000円 ・タネ 300円×30 9,000円 ・野菜苗 100円×100 10,000円 【料理教室】 ・食材費6,000円×2回 12,000円 【農機具】 レイキ1,500円、スコップ2,000円×1、シャベル300×10、鍬3,000円、マルチ5,000円×2、鎌300×10、ひしゃく500円
	使用料及び賃借料	¥ 37,200	・映画使用料 映画『いただきます みそをつくるこどもたち』30,000円 ・新松戸市民センター（講座）810円×2回=1,620円 ・新松戸市民センター（ホール3時間） （上映会）2,130円 ・新松戸市民センター（料理教室3時間） 1,320円×2回=2,640円 ・新松戸市民センター（活動報告3時間）810円×1回=810円
	食糧費	¥ 13,500	・参加者お茶代（150円×90人）
	印刷製本費	¥ 5,000	・周知用チラシ作成（5円×1,000部）
	対象経費の合計（D）	¥ 159,700	
その他経費			
	その他経費の合計（E）	¥ 0	
合計額（F）＝（D＋E）		¥ 159,700	

【チェック項目】

- 1 助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること
- 2 助成金（B）が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 6

《 スタート助成 》

手作りおもちゃカフェ事業

子育て+プラスゆとりにつこり

事業計画書

事業名	手作りおもちゃカフェ事業
団体名	子育て＋プラスゆとりにつこり

事業概要
松戸市内子育て支援団体等と協働して、高齢者がこれまでに培ってきた得意の裁縫や工作スキルを発揮しながらオリジナリティ豊かな手作りおもちゃを提案し、子どもと一緒に制作することで既成商品にない創作過程の面白さや多世代交流の楽しさを体験します。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	1. 子どもの孤立化：核家族の増加、共働きやひとり親などに伴う子どもの孤立化に対して、団体間連携による多様な支援体制により予防する必要があります。 2. 高齢者の増加：高齢者が躊躇し、社会参加が少ない状況に対し、そのゆとり時間を子どもや子育て支援に役立て地域でいきいきと生活してほしい。						
事業の目的	1. 「子どもの孤立化」を防止するために、子育て支援団体と協働しながら、手づくりおもちゃと一緒に制作し多世代交流の楽しさを体験します。 2. 一般の高齢者がこれまでに培った特技や経験を発揮して、楽しみながら子育て支援に参加することを目指します。						
事業内容	1. 事業内容 手作りおもちゃカフェの開催 (1)子どもの孤立化を防ぐため多世代交流のイベントを月1回実施します。 (2)また、他団体のイベント等に出張して協働する事で、自団体の通常のイベントでは手の行き届かない子どもに対しても、アプローチします。 会場：(1)新松戸市民活動支援コーナー(2)市内子どもの居場所やイベント会場 対象：子ども 内容：布製おもちゃ（裁縫）・段ボール製おもちゃ（工作）による制作体験 なお、他団体の催しへの出展については、協働する市民活動団体等が企画・運営するイベントや子どもの居場所に当団体「ゆとりにこ（略称）」が出向き、以下のとおり実施します。 ・多世代交流型居場所等への参加で家庭的な雰囲気で交流しながら、子どもを慈しむ想いを込めて作品と一緒に制作します。 ・使用する材料（布、段ボール、針や工具など）の安全性に配慮して、ボランティアメンバーによるサポート体制を整えます。 ・丁寧に子どもと関り一緒に制作したおもちゃで遊び楽しみます。その後は作品を自宅に持ち帰り引き続き遊べるようにします。 ・イベント終了後、参加団体を対象にアンケートを行い効果検証します。 ・高齢者の参加を募るため、チラシを配架するほか、他団体の高齢者等を講師に招き試作品を検討することで横の繋がりを広めます。 2. スケジュール <table><tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>①実施体制 ②対象 ③場所等</th></tr><tr><td>6.8.10.3月 を除く毎月 第3日曜日 11時～14時</td><td>(1)手作りおもちゃカフェの開催（8回） ・多世代交流型の居場所として手作り品と一緒に作成</td><td>① 会員 ② 子ども、高齢者 ③ 新松戸市民活動支援コーナーなど</td></tr></table>	実施月	具体的な取り組み	①実施体制 ②対象 ③場所等	6.8.10.3月 を除く毎月 第3日曜日 11時～14時	(1)手作りおもちゃカフェの開催（8回） ・多世代交流型の居場所として手作り品と一緒に作成	① 会員 ② 子ども、高齢者 ③ 新松戸市民活動支援コーナーなど
実施月	具体的な取り組み	①実施体制 ②対象 ③場所等					
6.8.10.3月 を除く毎月 第3日曜日 11時～14時	(1)手作りおもちゃカフェの開催（8回） ・多世代交流型の居場所として手作り品と一緒に作成	① 会員 ② 子ども、高齢者 ③ 新松戸市民活動支援コーナーなど					

	5・7・9月	(2)出張おもちゃカフェの試作品検討、制作 ・手芸や工作活動している他団体の高齢者等を講師に招き試作品を検討する。 ・周知活動、消耗品の購入、材料の準備、資料作成	① 会員・協働団体スタッフ ② 高齢者 ③ 新松戸市民活動支援コーナーなど
	6・10・3月	(2)出張おもちゃカフェの開催(3回) ①協働団体との協議検討 ②広報活動(HP, チラシ、情報紙、資料作成等) ③他団体の企画、運営するイベントや子ども食堂に出向く。 ・オリジナルのおもちゃ制作体験(麻ひも人形、輪投げ等) コーナー設営 ・来場した子どもに寄り添い、一緒に資料や見本等を見ながら、丁寧に説明し制作する。	① 会員・協働団体スタッフ ② 子ども、高齢者 ③ 出張先団体(NPO 法人、市民団体、子ども食堂など)
	8月	(2)出張・おもちゃカフェ集中開催(3回/子どもの夏休み中に集中開催) ①②③同上	① 会員・協働団体スタッフ ② 子ども、高齢者 ③ 出張先団体(NPO 法人・子ども食堂など)
	3月	(2)出張・おもちゃカフェ実施評価 ・出張先団体の評価 ・協働団体の評価 ・広報活動の評価 ・手作りおもちゃの評価 ・出張アンケート調査、ヒアリング調査実施	① 会員・協働団体スタッフ ② 会員・出張先の協働団体 ③ 新松戸市民センター 市民活動支援コーナーなど
事業の目標	(1)開催回数：8回以上/年 (2)出張協働事業：協働団体2団体以上 (1)(2)子どもの参加者数：8名/回、高齢者の延べ参加者数：30名 (1)(2)高齢者による様々なオリジナルおもちゃ(裁縫、工作)の提案 (1)(2)子どもや高齢者の笑顔が見られる (2)アンケート調査及びヒアリング調査：満足度評価(平均)3以上/5段階		
今後の展望	・高齢者が寄り添い手作りするおもちゃの質を高め、子どもの創造性を培い満足度を向上できるようにします。 ・協働する市民活動団体を拡大し、高齢者による子育て支援活動の場を広めます。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 9,520	事業費の一部を団体より拠出
	参加費	¥ 33,600	おもちゃカフェ参加費 8人×300円×14回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 43,120	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 143,120	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の 交付対象経費	消耗品費	¥ 73,000	・手芸・工作材料（布類、裁縫用具、塗料、工具、遊具、文具、色紙、はさみ、カッター、作業板など）、衛生材料、参考書籍 ・印刷用インク、上質紙
	食糧費	¥ 25,500	・おもちゃカフェ参加者用お茶菓子
	印刷製本費	¥ 5,100	・おもちゃ作成パンフレット、チラシ
	保険料	¥ 9,520	・イベント行事用保険料
	報償費	¥ 9,000	・手づくり品の作成（外部）講師料
	対象経費の合計 (D)	¥ 122,120	
その他経費	通信運搬費	¥ 15,000	・団体ホームページプロバイター使用料
	交通費	¥ 6,000	・出張交通費
	その他経費の合計 (E)	¥ 21,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 143,120	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 7

《 スタート助成 》

松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業

松戸の地理・歴史探訪調査会

事業計画書

事業名	松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業
団体名	松戸の地理・歴史探訪調査会

事業概要	
常盤平地区に残された「子和清水」の本来の姿や特色について、水利用や侵食谷の地形的、歴史文化的特性に注目し、関連する鮮魚街道筋についても、過去のルートと地域開発にともない変貌した姿について明らかにし、文化財の復元活用を試みる。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	令和5年7月、文化庁文化審議会文化財分科会の答申を受け、「松戸市文化財保存活用地域計画」が文化庁長官の認定を受けた。松戸市では、市民の「ふるさと松戸」への愛着と誇りを醸成しつつ、地域固有の歴史的・文化的な資産を次世代へ引き継ぐため、令和5年度から令和12年度までの8年間を計画期間とする「松戸市文化財保存活用地域計画」を策定している。この計画では、「行政のみならず地域に暮らす人々が一体となって、地域総がかりで文化財を「守り」「活かし」「伝える」体制を構築し、文化財の継承に努めて行く。」とある。 本会が取り組む事業計画は、文化庁、松戸市の方針に即した地域の歴史的な文化財の将来的活用を鑑み計画するものである。
事業の目的	松戸市にとって重要な歴史文化的意義をもつ「子和清水」について、自然と地理・歴史的な側面から究明し、さらに松戸の歴史発展に寄与した旧鮮魚街道のルートの探求と地域の歴史文化に関わるその特性と過去と現在についての変化を明らかにして、歴史文化遺産としての価値を見出すとともに、松戸市政や地域の学校や子どもたちへ伝え、地域の環境教育に活かされるような取り組みを行うことを目的とする。なお、本事業は、環境教育や多くの市民の記憶に残る松戸の重要な歴史文化資産が引き継がれることを願って活動するものであり、また「松戸市文化財保存活用地域計画」の推進に協力しながら、後世に伝えていくための重要な調査研究と考える。
事業内容	1 事業内容 ① 事業にあたっての現状認識、問題提起 ・かつて江戸・東京への重要な物資輸送を担っていた「鮮魚街道（なまみち）」や街道の中継水場「子和清水」については、団地開発や道路整備事業により姿が変貌し、かつての状況が不明な部分が多い。 ・「子和清水」については、養老伝説の話以外の本来の地域の自然・歴史文化的価値の特性については明らかにされてきていない。常盤平団地および牧の原団地開発により変貌した状況についても明らかにされていない。また、旧鮮魚街道についても複数の異なったルート考察が見受けられ正確な実態調査がなされず、松戸市観光協会、教育委員会等が公表している内容にも誤った表記もみられる。 ② 事業立案 ・「子和清水」および「鮮魚街道」は、松戸市にとって貴重な歴史文化財的価値があると思われることから、その復元に向けて、その全容を解明していく。 ・本事業は、現松戸市文化財保存活用地域計画に即したテーマ（松戸宿、鮮魚街道と江戸河岸）に該当するものであり、事業の重要性が高いものとする。 ③ 事業の市民への享受 ・本事業の調査研究は、多く市民に伝達し文化的な資産価値を認識してもらうことが重要と考え、地形や水系を考察し、歴史的に変貌した状況を研究し、

	地図を活用して市民に分かりやすい説明を重視し公開していく。 ・本事業の成果は、松戸の郷土史に関心を寄せる市民をはじめ多くの市民に伝えていくことで、松戸市の歴史文化により興味をもってもらい、文化財保存の意義や価値について理解し、次世代に伝えてもらえることが有益だと考え事業を推進していく。 ・市民への情報伝達享受の方法として、メール、松戸市の広報誌、まなびいネット等を利用した案内を行い、印刷配布、現地案内（巡検）、機関紙の発行等で調査・研究内容を伝えていく。「また、関連事項について近隣の研究会（金ケ作陣屋研究会）ほか、周辺自治体の研究団体と連携しながら勉強会や現地案内（巡検）を分担しながら交流を図る。 2 スケジュール <table><tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr><tr><td>4～6</td><td>鮮魚街道の道筋調査 1 松戸周辺地域を含めた現地調査</td><td>会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究</td></tr><tr><td>7～10</td><td>鮮魚街道の道筋調査 2 常盤平および周辺地域の開発変貌と子和清水、鮮魚街道の変化調査</td><td>会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査</td></tr><tr><td>4～11</td><td>子和清水の旧谷津調査 水系・地形調査、聞き取り調査</td><td>会員による水系・地形調査、聞き取り調査</td></tr><tr><td>11～2</td><td>調査研究の整理</td><td>景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備</td></tr><tr><td>3</td><td>研究報告と機関紙発行、 現地案内</td><td>会員、地域住民参加による子和清水および周辺の旧街道、地形を案内、</td></tr></table> 上記スケジュール内には、資料、史料調査整理も含め随時遂行していく。	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～6	鮮魚街道の道筋調査 1 松戸周辺地域を含めた現地調査	会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究	7～10	鮮魚街道の道筋調査 2 常盤平および周辺地域の開発変貌と子和清水、鮮魚街道の変化調査	会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査	4～11	子和清水の旧谷津調査 水系・地形調査、聞き取り調査	会員による水系・地形調査、聞き取り調査	11～2	調査研究の整理	景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備	3	研究報告と機関紙発行、 現地案内	会員、地域住民参加による子和清水および周辺の旧街道、地形を案内、
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																	
4～6	鮮魚街道の道筋調査 1 松戸周辺地域を含めた現地調査	会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究																	
7～10	鮮魚街道の道筋調査 2 常盤平および周辺地域の開発変貌と子和清水、鮮魚街道の変化調査	会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査																	
4～11	子和清水の旧谷津調査 水系・地形調査、聞き取り調査	会員による水系・地形調査、聞き取り調査																	
11～2	調査研究の整理	景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備																	
3	研究報告と機関紙発行、 現地案内	会員、地域住民参加による子和清水および周辺の旧街道、地形を案内、																	
既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）																			
事業の目標	(1) 既存の地形図や旧版の地形図を利用し過去と現代の重ね合わせの地図作製 (2) 地形・水系から想像する子和清水と旧鮮魚街道の実態と景観図作成 (3) 子和清水のスケッチ画像作成 (4) 調査研究成果の報告 (5) 完成した際には 100 部ほどを印刷し、関係者に配布する。 (6) 研究説明会および現地巡検を市民参加型で開催する。																		
今後の展望	本事業は、本来の姿でなく公園化されている「子和清水」の復元、「鮮魚街道」の正確な内容研究を目指すものである。次年度以降も「子和清水」、「鮮魚街道」のさらなる実態調査により変貌前の未解明部分の調査を継続する。次々年度は、さらに「子和清水」、「鮮魚街道」について、台地の地形や谷津（谷戸）の水環境を考慮しながら、開発による変貌前と今の姿を面的かつ立体的に捉えての図化、地図への表現により、松戸市の文化財的資産を体感する場として復元を目指す研究作業を進めて行く。																		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 278,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 278,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 378,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 51,500	関連専門書 @3,000×5 15,000円 雑誌購入費用 @1,000×5 5,000円 地形図、旧版地形図 @500×20 10,000円 インクカートリッジ @300×50 15,000円 用紙 1000円 フィールドノート @550×10 5,500円
	印刷製本費	¥ 20,500	関連図書複写代 @10×300枚 3,000円 @50×50枚 2500円 外部委託印刷概算 @150×100 15,000円
	使用料及び賃借料	¥ 21,000	常盤平市民センター他会場代 500×20 10,000円 印刷機リース利用 作成資料等印刷代金@1100×10ヵ月 11,000円
	食糧費	¥ 20,000	参加者飲料代 @200×5人×20 20,000円
	委託料	¥ 100,000	イラスト・設計料 100,000円
	報償費	¥ 15,000	外部協力者聞き取り @3000×5回 15,000円
	保険料	¥ 10,000	研究会、巡検等開催傷害保険 4月～翌年3月 (1年間の傷害保険料 1回20人まで10,000円)
	対象経費の合計 (D)	¥ 238,000	
その他経費	PC購入	¥ 50,000	中古PC OSWindows11乗り換え
	PCグラフィックソフト	¥ 40,000	CANVAS (日本ポラデジタル) アップグレード版 Windows11用
	調査用計器	¥ 20,000	地形・距離計測用レーザー距離計
	その他	¥ 30,000	現地調査等自動車使用 @5000×6回 30,000円
	その他経費の合計 (E)	¥ 140,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 378,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 8

《 ステップアップ助成 》

四世代のきずなで、豊かな
生活環境を実現する事業

小金原みんなでわくわくする会

事業計画書

	事業名	四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業
	団体名	小金原みんなでわくわくする会
事業概要		
老人から孫まで、四世代がより健康で安全・豊かな生活ができる居住環境を実現するため、小金原地区における地域活動を SDGs(「持続可能な開発目標」)の視点から再構成し、全世代参画のもとに助け合える魅力あるまちづくりの実現を目指す。		
取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	小金原地区は、高齢化が進んでいる地域であり、高齢者にとって住み易い街を志向するだけでなく、若い世代を巻き込み、彼らにとっても魅力ある街にしていかなければならない。	
事業の目的	四世代が、明るく健康で安全・豊かな生活ができる災害に強い居住環境を実現するため、従来からの地域活動を SDGs 活動の一環として整理・進化させ、世代相互の協力体制による「ありがとう！」のまちづくりを目指す。	
事業内容	1 事業内容 R6 年度まで、SWOT(強み弱み)によるまちの分析を基に4テーマと町会共催の四世代交流会の活動を推進してきた。R7 年度は、更に、再編集約した2テーマと四世代交流会の活動に絞り、住み易い環境と美化を目指す。 【活動テーマと主な活動】 1) テーマ1;花き栽培と落葉の堆肥活用化(SDGs 7,11,15) ① 花き栽培(第13回 SDGs 活動会)(5月) ・やまばと公園内しだれ桜花壇及び公園南西コーナー花壇(R6 新設)の花き栽培推進⇒市から無償支給の花き栽培 ・同公園南側道路との境界位置に花壇設置(申請計画)し、幼稚園園児による花植えを計画⇒公園を住民の憩いと交流の場とする ② コンポスト(第13回 SDGs 活動会)(5月) ・毎月の町会当番で集めた落ち葉をコンポストに回収、堆肥化し、花き栽培に活用し、併せて、清掃車回収のコスト削減を目指す ・設置については、基礎固定作業等は、左官業者に指導依頼する ③ コンポスト堆肥化状況(現場調査)(第15回 SDGs 活動会)(9月) 2) テーマ2;町民講座の開設(SDGs 3,4,11)(4回/年) ・町内在住の師匠、先生、技能者等優れた特技の持ち主を登録 第1回;花の育て方(6月) 第2回;エンディングノート勉強会(継続開催1回/年)(第14回 SDGs 活動会)(7月) ・人生100年に向かっての整理と準備(高齢者支援に繋げる) 第3回;郷土歴史 小金原地区の名称由来、根木内城他(10月) 第4回;成年後見制度(出前講座)(25/2) 3) 第3回四世代交流会(SDGs 3,5,11)(11月)他町会の招待⇒合同開催化 ・小中学生による演奏と全世代が輪になって合唱ダンス 4) 第16回 SDGs 活動会(12月) R7 年度まとめと及び事業継続可否検討	

	2 スケジュール		*対象: 全て小金原地域住民
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	2025/5	・第 13 回 SDGs 活動会 テーマ 1; 花き栽培・落ち葉 ① 花き栽培現状と年度計画コン ポスト落ち葉堆肥化状況 ② テーマ 2; 町民講座年度計画	実施体制(以下体制); 会メンバー、講師 江戸川大学 佐藤秀樹先生 場所; 小金原三丁目町会館
	2025/6	・第3回四世代交流会準備 ・第 1 回町民講座; 花の育て方	体制; 会メンバー、町会 場 所; 小金原三丁目町会館
	2025/7	・第 14 回 SDGs 活動会 第 2 回町民講座; エンディング ノート、テーマ 1, 2 の進捗報告	体制; 会メンバー、講師、町会 場所; やまばと公園
	2025/9	・第 15 回 SDGs 活動会 コンポストの堆肥化状況確認 交流会準備(ポスター作成他)	体制; 会メンバー、講師 場所; やまばと公園
	2025/10	・第3回四世代交流会準備 第 3 回町民講座; 郷土歴史	体制; 会メンバー、町会 場所; 小金原三丁目町会館
	2025/11	・第3回四世代交流会 小中学生の吹奏楽を含む音楽中 心とした全地域住民のつどい	体制; 会メンバー、町会 場所; 小学校体育館
	2025/12	・第 16 回 SDGs 活動会 R7 年度まとめと事業継続可否	体制; 会メンバー、町会、講師 場所; 小金原三丁目町会館
既存の事業からステップアップする部分(ステップアップ助成のみ)	2026/ 1~3	・活動報告とりまとめ ・第 4 回町民講座; 成年後見制度	体制; 会メンバー、町会 場 所; 小金原三丁目町会館
	SWOT 抽出の 4 テーマについて、具体的成果が見込まれる 2 テーマに集約・再編成し、活動の集中化を図る。町民講座として、高齢者に有用な内容や若年層に興味のあるテーマを織り交ぜる。 また、四世代交流会は、過去 2 回の経験を踏まえて、広く地域の市民参画と小中学生若年層の演奏、参加を目論んで企画する。		
事業の目標	1. 活動2テーマ及び四世代交流会の事前周知; 掲示板・回覧板に掲載する。 2. 第 13~16 回 SDGs 活動会(4 回/年、延べ 60 名参加) 3. 第 1~4 回町民講座(4 回/年、延べ 60 名参加) 4. 第 3 回四世代交流会;(参加者 100 名以上) 小中学生の演奏参加 5. 野外活動(随時 4 回/年、延べ 30 名); やまばと公園花壇の継続及び東側花壇設置とコンポストの維持管理(落ち葉 特大ビニール 20 袋以上回収)		
今後の展望	1. 公園の花き栽培により、明るく集える憩いの場とする。コンポスト堆肥は、花きだけでなく、町民の家庭菜園にも活用し、栽培作業を通した高齢者の適度な運動確保と、新鮮野菜による家族の健康増進を図る。 2. 町民講座の開催を継続し、街の卓越した才能、技量の方を開拓して、豊かな交流の輪を広げる。⇒将来は、在住する外国人やその子女にも母国の紹介等発表してもらい、相互の理解を深める。 3. 四世代交流会は小中学生の音楽演奏を取り入れ、音楽活動を通した双方向の地域町会活動とする。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 58,959	事業費の一部を団体会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 58,959	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 278,631	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 337,590	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 80,000	SDGs外部講師謝礼 10,000円x4回 左官作業指導及び基礎 20,000円 x 延べ2日
	消耗品費	¥ 213,590	市民講座・勉強会資料 用紙；1.1円 x 5P x 100セット x 2種=1100円 インク；2650円 x 2
			ブレインストーミング 模造紙；110円(4枚) x 4枚 他 マジック；110円 x 5本x3色
			コンポスト製作 サイズ：3740x1930x600H ブロック 1400円 x 20個=28000円 鉄筋支柱 2200円 x 20本=44000円 セメント袋(20kg) 1,800円x 4袋=7200円 鉄筋 (D19x1000) 850円 x 14=11900円 安全ポール 5,500円 チェーン 800円(2m) x 4個=3200円 コーン (ベッド付) 2100円x 4セット=8400円 シート 2.7x3.6m 1,800円 帆布シート 2x2m 5,600円 ガーデン用具 6,000円 x 2セット チューリップ、水仙、他 球根/苗：300円x 50個x 3種類 プランター 300円x14個x2= 8400 サポート支柱 880円(10本入)x10セット 花壇柵用円弧ポール 1200円(4本入)x10セット エンディングノート 110円x30=3300円
	印刷製本費	¥ 16,000	・活動説明、活動成果 8円 x 500枚x2回= 8000円 チラシ印刷 20円 x100枚x4回= 8000円
	対象経費の合計 (D)	¥ 309,590	
	その他経費	¥ 28,000	勉強会・会合・作業の 100円 x 50人x4回 お茶代 100円 x 10人x8回
	その他経費の合計 (E)	¥ 28,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 337,590	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 9

《 ステップアップ助成 》

幸谷関さんの森昔のくらし館設置及び
冊子発行事業

関さんの森エコミュージアム

事業計画書

事業名	幸谷関さんの森昔のくらし館設置及び冊子発行事業
団体名	関さんの森エコミュージアム

事業概要
道路計画を変更して保存された、江戸時代から続く古い蔵と門、蔵に保存されている古文書や昔の生活用品等は、貴重な歴史・文化遺産である。これらを保存・展示し、市民に幸谷村の人々の暮らしの歴史と文化を、見て体験してもらう「幸谷関さんの森昔のくらし館」を設置する。また、歴史的・文化的な資産を次代に引き継ぐため、これまで集積した古文書を読み解いて得られた知見を整理してまとめ、冊子として発行する。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市は急激な都市化等に伴い、文化財の継承が危機的な状況になりつつある。2023 年に策定された「松戸市文化財保存活用地域計画」は、『市民の「ふるさと松戸」への愛着と誇りを醸成し、地域固有の歴史的・文化的な資産を次世代へ引き継ぐこと』を目指している。 松戸の原風景である関家の門や蔵も、地域の人々と協働して郷土の文化財として保存・活用することが焦眉の課題で、魅力あるまちづくりに必要である。							
事業の目的	関家は幸谷村の名主を務め、江戸時代に建てられた 3 つの蔵と門が現存し、古文書や昔の生活用品等が大量に保存されている。これらを幸谷地区の歴史的・文化的な資産として公開し、次世代へ引き継ぐことを目的とする。 ① 古文書(約 3,500 点)は、当会の古文書グループにより調査が進み、その成果は新松戸のタウン情報誌上で「関さんの蔵通信」として 100 余回にわたり連載されている。これを、江戸時代の幸谷村の人々の暮らしの記録として市民に提供し、古文書に親しんでもらうための冊子を発行する。 ② 3 つの蔵の保存物品の調査を進め、その全容を記録して明らかにする。 ③ 蔵の修繕と展示用の改装をすすめ、古文書や昔の生活用品等を展示する「昔のくらし館」を開館し、学びや体験の場として提供する。							
事業内容	1 事業内容 ① 「昔のくらし館」設置にあたり、博物館運営の専門家をアドバイザーとして招き、所蔵する生活用品や古文書等の展示や公開のあり方を検討し、展示コンセプトを決定する。 ② 江戸時代から続く 3 つの蔵と門を、適切に修繕・保存する。 ③ 蔵に保存されている生活用品等を 1 点ごとに調べ、保存台帳を完成させる。 ④ 「関さんの蔵通信」100 号分の内容を整理し、幸谷村民の生活、領主とのかかわり、災害への対応、村の事件など 10 章にまとめた冊子を発行する。 ⑤ 蔵の保存物品・古文書などの資料の、「昔のくらし館」での展示や公開にあたり、展示用パネルや解説リーフレットを作成する。また、開館イベント開催を広く市民に宣伝するために、チラシ・ポスター・配布資料を作成する。 ⑥ 「昔のくらし館」を開館し、市民を対象に開館記念のイベントを開催する。イベントでは、蔵通信をまとめた冊子を配布する。 2 スケジュール <table><tr><td>実施月</td><td>具体的な取り組み</td><td>実施体制、対象、場所など</td></tr><tr><td>通年 (月 2 回)</td><td>門と蔵及び屋敷林の維持管理作業及び終了後に会議を実施。</td><td>第 1, 3 日曜日、会員及び関さんの森を育む会の会員約 20 名</td></tr></table>		実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	通年 (月 2 回)	門と蔵及び屋敷林の維持管理作業及び終了後に会議を実施。	第 1, 3 日曜日、会員及び関さんの森を育む会の会員約 20 名
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など						
通年 (月 2 回)	門と蔵及び屋敷林の維持管理作業及び終了後に会議を実施。	第 1, 3 日曜日、会員及び関さんの森を育む会の会員約 20 名						

	通年 (月 1 回)	古文書の日録作りと整理、読み解く等の作業を行う。	会員 (古文書グループ 9 名) 関家屋敷内「森のサロン」にて
	通年 (月 1 回)	蔵の壁などの修繕と整備。蔵の保存物品を調査し、保存台帳を作成する。	会員 (おもに建築士 4 名) が、関家屋敷内でおこなう。
	4~8 月	「昔のくらし館」の開館記念イベント等に使用する、蔵通信 100 号」をまとめた冊子を編集し、300 部を印刷する。	編集・校正作業は会員 (古文書グループ) が「森のサロン」で行う。冊子の印刷は外注する。
	5, 10 月	古民家や博物館等の展示に関する専門家をアドバイザーとして招き、展示方法等を検討する。	会員が博物館運営の専門家 (外部) に 2 回の指導を受け、蔵の展示コンセプトを決定する。
	7~12 月	関家保存の木材を使用して古文書展示用の額を作成する。	会員 (おもに建築士 4 名) が、作成する。
	1~3 月	展示用パネル・解説リーフレット、イベント開催用のチラシ・ポスター・配布資料を作成する。	会員が編集・デザインし、外注する。
	3 月下旬	「昔のくらし館」開館記念イベントを開催する。	市民 200 名を招き開催する。参加者に冊子や資料を配布する。
既存の事業からステップアップする部分	① 関家の 3 つの蔵と門は、2016 年に千葉県建築士会の助成を受け、地元建築士の協力で調査・保存活動を開始し、建物の外郭と中の整理は一応終了した。一方、収納された生活用品等の 1 点ごとの調査・台帳への記載が未完成だったが、本事業の期間内に完了し、その全容を明らかにする。 ② 関家古文書は、2008 年より当会の古文書グループを立ち上げ、現松戸市立博物館館長の指導を受けて、整理保存と読み解く作業を行ってきた。本事業は、古文書調査の成果を冊子にまとめる。また、新たに古文書関係の資料を展示に加える。 ③ 生活用品を陳列した展示室は 2019 年に整備した。本事業では改めて展示室のコンセプトを検討し、展示する生活用品等を見直し、さらに古文書の展示や 3 つの蔵や門の資料を加えて充実させ、「昔のくらし館」として開館する。		
事業の目標	① 蔵に保存されている生活用品等の調査及び台帳への記載を完了する。 ② 「蔵通信 100 号」をまとめた冊子を発行し、開館記念イベント等で提供する。 ③ 「昔のくらし館」を開館し、市民に公開する。 ④ 開館記念イベントを、市民 200 人を招いて開催する。		
今後の展望	関さんの森 2.1ha の約 8 割は「特別緑地保全地区」に指定され、将来とも保存されることになっており、すでに屋敷林は常時公開されている。一方、関家の庭や門・蔵は現在のところ、その一部が月 1 回の限定公開となっている。 本事業の「昔のくらし館」開館を契機に、全面公開に向けての足場としたい。そして、門や蔵を含めた関さんの森全体を、市民に愛される身近な体験や学びの場 (エコミュージアム) として、次世代に引き継いでいきたい。「昔のくらし館」は当面月 1 回定例日に開館するが、学校等の要望に応じて臨時でも公開する。 なお、蔵に保存された古い生活用品等は、物を大切にリサイクルして使ったものが多く、持続可能な社会の実現に向けての学習に使える。また、認知症の予防となる「回想法」にも必要な品であり、今後はその活用の実践に努めたい。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 53,000	事業費の一部を団体の会計より支出
	昔のくらし館オープン事業参加料	¥ 40,000	オープン記念事業参加費 200円×200人 (小人無料)
	100号記念有償配布収入	¥ 60,000	印刷物の有償配布代 600円×100部
	自己資金の合計額 (A)	¥ 153,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 453,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 60,000	アドバイザー謝金 30,000円×2回
	消耗品費	¥ 18,350	プリンターインク 1,250円×2個 A4コピー用紙 450円×1個 展示用木製額作成費 アクリル板 6,200円×2個 合板 1,500円×2枚
	印刷製本費	¥ 66,900	記念事業チラシ A4カラー 4円×1,000枚 記念事業ポスター A3カラー 260円×40枚 記念事業配布資料 A4カラー 30円×250部 くらし館リーフレット A4両面カラー 15円×3,000枚円
		¥ 165,000	100号記念誌作成費 200頁A5版無線綴じ 550円×300部
	通信運搬費	¥ 5,150	資料郵送料他 スマートレター 210円×5枚 宅配便 820円×5個
	委託料	¥ 21,600	展示用パネル作成費 A1カラー 5,400円×4枚
	保険料	¥ 6,000	行事保険料 くらし館開館記念イベント開催時
	対象経費の合計 (D)	¥ 343,000	
その他経費	印刷製本費	¥ 110,000	100号記念誌作成費 200頁A5版無線綴じ 550円×200部
	その他経費の合計 (E)	¥ 110,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 453,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 0

《 ステップアップ助成 》

葡萄の家ふれあいコンサート・イベント事業

特定非営利活動法人 葡萄の家

事業計画書

事業名	葡萄の家 ふれあいコンサート・イベント事業
団体名	特定非営利活動法人 葡萄の家

事業概要	
障がいのあるなしに関係なく、参加できるイベントを実施する。 障がいを持つ人は、普通に町に暮らしている。「障がい」という言葉は、特別な言葉では無いと感じてもらえるようにしたい。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	多様性が必要とされる声が高まりつつある社会で、障がい者と一緒に参加できるイベントが少ない。地元の松戸市の施設を「コンサート」では活用し、「おもしろ実習教室」では、同じ様な取り組みが、他の市でも行われているが、松戸市は他の市と違い、障がい者だけのイベントではなく、すべての人が対象者のイベントである事をアピールしたい。ショッピングモール主催ではなく、市民活動が主体のおもしろ実習教室を開催する事で認知度を上げて、皆に知ってもらいたい。
事業の目的	障がいのあるなしに関係なく、同じイベントでの同じ場所・同じ時間を過ごすことによって、障がいもその人の一つの個性だと理解してもらいたい。 障がいを持つ人は、どこにでも居て、普通に暮らしている。「障がい」という言葉は、特別な言葉では無いと感じてもらえるようにしたい。
事業内容	1 事業内容 ① おもしろ実習教室 講師：日本技術士会のエンジニア 会場：テラスモール松戸 2F こもればステージ 参加者：120名（3回講演の合計） 参加費：無料 今回の参加者は、ショッピングモールで、無料で開催する事で、沢山の知らない人に見てもらい、当日でも家族と一緒に参加がしやすいように余裕を持っている。閉じられた会場では、それを目的とした人たちだけが集まり、影響はその範囲だけになってしまうが、多人数の多目的の集団に、見てもらえる事で、影響の範囲は広がる。 公益社団法人 日本技術士会のエンジニアの方々（4～6名）が障がいのあるなしに関わらず、科学工作を優しく丁寧に指導してくれる。 工作の材料（パーツやネジ等）、説明書は、予め一人分を袋に入れて準備する。 ② ふれあいコンサート （出演者：ジョーバン・バロック・アンサンブル） 会場：森のホール21 小ホール 参加者：120名 演奏者は、常磐線沿線出身あるいは在住で、各方面で活躍中の実力派メンバーによって結成されたアンサンブル。ピリオド楽器（作曲家が生きていた時

	代に使われた楽器) を用い、バロック音楽をレパートリーの中心としている。演奏者からの古楽器の紹介や、説明がある。コンサートの後に、ワークショップを開催し、古楽器の説明や、リコーダーの演奏指導、舞台上での演奏体験などを行う。 どちらのイベントも、イベントの内容は、松戸市の広報や、地域新聞をはじめとする地域の情報雑誌に掲載を依頼する。団体のホームページや SNS に情報を載せる。養護学校や障がい者の作業所などにチラシを配る。松戸市教育委員会・社会福祉協議会の後援を申請する。昨年と同様、障がい者について知ってもらうポスターをテラスモールで展示する事で多くの人に知ってもらう機会にする。 2 スケジュール <table><tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr><tr><td>R7, 4 月</td><td>企画 打合せ</td><td></td></tr><tr><td>5 月</td><td>会場予約</td><td>テラスモール松戸 こもれびステージ 森のホール 2 1 小ホール</td></tr><tr><td></td><td>後援申請</td><td>教育委員会・社協</td></tr><tr><td></td><td>情報誌掲載依頼</td><td>広報・地域新聞など</td></tr><tr><td></td><td>チラシ作成</td><td>発送</td></tr><tr><td></td><td>S N S の掲載</td><td>Facebook イベントページ</td></tr><tr><td>8 月</td><td>おもしろ実習教室</td><td>テラスモール松戸 こもれびステージ</td></tr><tr><td>10 月</td><td>ふれあいコンサート</td><td>森のホール 2 1 小ホール</td></tr></table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	R7, 4 月	企画 打合せ		5 月	会場予約	テラスモール松戸 こもれびステージ 森のホール 2 1 小ホール		後援申請	教育委員会・社協		情報誌掲載依頼	広報・地域新聞など		チラシ作成	発送		S N S の掲載	Facebook イベントページ	8 月	おもしろ実習教室	テラスモール松戸 こもれびステージ	10 月	ふれあいコンサート	森のホール 2 1 小ホール
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																										
R7, 4 月	企画 打合せ																											
5 月	会場予約	テラスモール松戸 こもれびステージ 森のホール 2 1 小ホール																										
	後援申請	教育委員会・社協																										
	情報誌掲載依頼	広報・地域新聞など																										
	チラシ作成	発送																										
	S N S の掲載	Facebook イベントページ																										
8 月	おもしろ実習教室	テラスモール松戸 こもれびステージ																										
10 月	ふれあいコンサート	森のホール 2 1 小ホール																										
既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)	① おもしろ実習教室 ショッピングモールの会場で行う事により、当日参加者を取り込みやすい。普通に買い物をしてる人や、より多くの人に、チラシを配ったり、アピールが出来る。駐車場完備なので、障がいがある方も、来場しやすい。障がいを持つ人は、普通に町に暮らしている。「障がい」という言葉は、特別な言葉では無いと感じてもらえるようにしたい。 ② ふれあいコンサート コンサートのあと、ワークショップを行う。皆が身近に触れ合っているリコーダーを舞台の上で、演奏者から少し習い、演奏する。舞台の上で、演奏する体験を味わう。特別支援学校の先生と話し合い、何人かの音楽好きな生徒に、やさしく今回のワークショップについて説明し、参加者を呼び集める。																											
事業の目標	① 1 回の講座で、4 0 人を集める。1 日 3 回の講座をひらく。 障がい者理解についてアンケートを行い、「満足した」を 7 0 % 目指す。 ② 当日の公演で、1 2 0 人以上の来場者を目指す。																											
今後の展望	継続的にイベントを実施する事により、「障がい」への理解を深めてもらう。																											

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 301	事業費の一部を団体の会計より拠出
	コンサート収入	¥ 240,000	チケット代 2,000円×120人
	自己資金の合計額 (A)	¥ 240,301	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 540,301	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 250,000	日本技術士会 100,000円 (工作材料費含む) 演奏者謝礼 30,000円×5人
	消耗品費	¥ 9,150	おもしろ実習教室チラシ作成の印刷用紙 (500円×3) ・ インク5色パック (5,645円) ・ ゴミ袋、持ち帰り用ビニール袋 (545円) ・ 宛名ラベルシール (540円) ・ 封筒 (700円) 養生テープ・ポスター袋 (220円)
	印刷製本費	¥ 2,000	障がいについてのポスター 100円×20枚
	委託料	¥ 22,100	ふれあいコンサート ポスター400円×20枚 チラシ・プログラムの チラシ15円×500枚 デザインと製作、印刷 チケット20円×120枚 を含む プログラム35円×120部
	使用料及び賃借料	¥ 175,551	おもしろ実習教室会場設置用レンタル代 机(18) ・ イス(45) 貸出：60,000円 コンサート会場代 (9:00～17:00) : 森のホール21 小ホール(38,808円) ・ 楽屋1 ・ 2 ・ 3 (3,879円) ・ 演奏者用譜面台15本(2,310円) ・ 椅子15脚(2,310円) ・ 照明セット小ホール用B(30,492円) ・ 音響セット小ホール用B(12,936円) ・ ピアノ (外国製)小ホール利用料(15,400円) ・ ホワイトボード/黒板(308円) ・ 持込器具電源(308円) ・ 冷暖房設備小ホール(8,800円)
	通信運搬費	¥ 10,000	案内状、チラシ等の郵送
	対象経費の合計 (D)	¥ 468,801	
その他経費	食糧費	¥ 34,500	講師・会員の昼食代 (1,500円×13人) + (1,500円×10人)
	交通費	¥ 34,500	講師・会員の交通費 (1,500円×13人) + (1,500円×10人)
	保険料	¥ 2,500	ボランティア活動保険 500円×5人
	その他経費の合計 (E)	¥ 71,500	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 540,301	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

